

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：20530523

研究課題名（和文）

放課後における子ども・家庭育成支援プログラムの開発

研究課題名（英文）

A study on After school program contributes to child and parent well-being.

研究代表者

西村いづみ（NISHIMURA IZUMI）

県立広島大学・保健福祉学部・講師

研究者番号：90405522

研究成果の概要（和文）：

本研究は、子どもの生活・発達課題上必要とされる放課後支援体制を検討し、放課後における子ども・家庭育成支援プログラムを作成するとともに、実施上の課題を整理することを目的に行った。その結果、対人関係を広げる機会のある放課後活動への参加は、参加児の精神的健康の維持向上に資する可能性があること、親の他児や地域に対する関心と働きかけに作用することが示された。子どもの放課後の居場所づくりにはマネジメント機能が必要である。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to examine for an after school program contributes to child and parent well-being, and clarify the issues on the implementation. The main results were that the participation in after school activities broaden the interpersonal relationships with other children considered to maintain and improve children's mental health, and effected their parent's interest in and action to the community and other children. In order to create after school "Ibasyo" for children, the management function is essential.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：子ども・家庭福祉論

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：学童期，放課後，居場所，保護者，地域，マネジメント

1. 研究開始当初の背景

平成 19 年度から、文部科学省新規事業である放課後子ども教室推進事業（放課後子ども教室）と厚生労働省による放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）を一体的ある

いは連携して実施する総合的な放課後対策事業『放課後子どもプラン』が創設され、各市町村において実施されている。この事業は、総合的な少子化対策の一環として、小学校区単位で学校内の空き教室などを活用し「地域

社会の中で、放課後に子ども達の安全で健やかな居場所づくり」を推進するものである。また、学習活動やスポーツ・文化活動などの取組みに地域住民の参加・協力を求めるなど、地域交流と放課後生活の充実を図る内容となっている。『放課後子どもプラン』は、主に放課後児童健全育成事業関係者から批判的意見が出されているものの、○すべての子ども達(小学生)を事業の対象としていることから子ども社会の分断が解消され得ること、○教育委員会と福祉部局連携のもと実施されることで、放課後の生活を教育・福祉の両面から支援していくシステムが期待できること、○子どもの安全な遊び空間を切望してきた保護者のニーズに対応し得るモデルを提示していることなど、制度的には従来の問題点を解消している点は評価できる。一方、子どもの健全育成への成果を得るための具体的方策については殆ど検討されていない状態にある。特に、『放課後子どもプラン』の対象年齢は不登校、暴力行為やいじめ等、精神的健康の問題が出現する小学生が対象となっており、従来の乳幼児の保護者を対象としてきた少子化対策のノウハウで効果が期待できるとは考えにくい。学童期の放課後対策に関する調査研究としては、近年、児童館を含む福祉的社会資源の利用と子どもの生活や遊び・社会生活力等に関する研究が報告されている。しかし、それらの多くは実態調査にとどまっている。

2. 研究の目的

本研究は、子どもと保護者を対象とする調査から放課後の生活実態や精神的健康状態等について把握し、生活・発達課題上必要とされる放課後支援体制の検討を行い、その結果にもとづいて『放課後子どもプラン』における子ども・家庭育成支援プログラムを開発するとともに、プログラムの効果的な実施に必要なとされる条件を整理し提言を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 子どもの放課後の生活や健全育成活動、そして居場所に関する先行研究を収集し整理を行った。また、これまで本研究代表者が実施した、今回の研究協力地域であるA市の小学生・中学生・高校生を対象とする質問紙調査結果の分析を行った。そして、子どもの放課後の生活実態および精神的健康とその規定要因を明らかにし、放課後活動の具体的評価項目の選定を行った。

(2) 選定した放課後活動に関する評価項目の有効性を確認すると同時に、放課後活動参加による波及効果等を明らかにすることを目的に、『放課後子どもプラン』の一環である

放課後子ども教室に参加している児童、児童の保護者(主な養育者)、当該教室運営スタッフ(コーディネーター以外の有償ボランティア:主に地域団体から推薦を受け参加)を対象とした質問紙調査を実施した。参加児童を対象とした調査では、各放課後子ども教室を通して、調査実施1ヶ月前に調査の依頼を文書にて行い、質問紙記入は放課後子ども教室実施時に行った。本調査の面接に関し事前にトレーニングを受けた調査者による個別面接を行った。小学4年生以上に対しては、児童数名ごとに1名調査者がつき、自己記入式で実施した。また、参加児童の保護者に対しては各放課後子ども教室を通して、教室運営スタッフに対しては放課後子ども教室運営委員会を通し調査を依頼し、郵送法にて実施した。研究の方法(1)にもとづき、参加児童に対しては放課後子ども教室にいる時の気持ちを問う項目、教室参加による他児や大人とのつながりに関する質問項目等により構成された質問紙を、保護者および教室運営スタッフに対しては、放課後子ども教室にいる時の子どもの様子に関する項目、放課後子ども教室参加を通じた他児への関心・地域(人、設備等)への関心の高まりや人間関係の形成状況を問う項目を中心に構成した質問紙を用いた。配布部数は参加児童86部、保護者98部、教室運営スタッフ80部。うち、有効回収数は、参加児童86部(100.0%)、保護者90部(91.8%)、教室運営スタッフ64部(80.0%)であった。

(3) 子ども・家庭育成支援プログラム(試案)の運用可能性を探るため、調査対象地域における放課後活動について、特に健全育成を目的とする放課後子ども教室に絞り視察を行った。また、放課後子どもプラン担当機関、放課後子ども教室コーディネーター、教室運営スタッフに対してインタビューを行った。

4. 研究成果

本研究から以下の成果が得られた。

(1) 平成18年度の小学生・中学生を対象とした放課後における生活実態に関する質問紙調査(有効回収数1,729;有効回収率92.7%)から、中学生の方が放課後において子ども自身が自由に活動を決められる時間が限られ、最近の気持ちや体の調子に関し不安定さや疲労感が強かった。精神的健康に関しては、平成19年度の小学生・中学生・高校生を対象とした質問紙調査(有効回収数1,097;有効回収率95.1%)においても、高学年ほど抑うつ度の高い子どもの割合が高かった。同時に、小学5年生においても抑うつ傾向の高い子どもが認められた。また、抑うつの原因の一つであるストレスへの対処としていずれの学年も「友達と遊ぶ」方法をとる子どもの

割合が最も多く、「友達と遊ぶ」方法をとらない子どもよりも抑うつ度が低いことが認められた。このことから抑うつへの予防策として、精神的健康に作用する子ども同士が交流する場づくりの必要性が改めて示唆された。

(2) 地域特性の異なる放課後子ども教室の参加児童、参加児童の保護者および教室運営スタッフに対する質問紙調査から以下の点が明らかになった。

① 地域特性や学年の違い（低学年・中学年）に関わらず、参加児童の6～7割以上が放課後子ども教室にいる時に「わくわくする」「楽しい気分になる」といった高揚感や「ほっとする」「あたたかい感じ」といった安心感を高く回答しており、放課後子ども教室が参加児童にとって主観的にも居場所となっていることが示唆された。また、放課後子ども教室を通じた同学年・異学年の友人の広がりの有無によって、教室にいる時の気持ちに違いが認められ、友人関係の広がりがわくわく感といった気持ちの高揚につながる可能性が考えられた。

② 保護者による、放課後子ども教室参加時の児童の様子に関する評価は、教室間で異なっていた。しかし、教室運営スタッフによる子どもの様子に関する評価は教室間で違いは認められなかった。また、子どもが放課後子ども教室に参加することに起因する保護者自身の地域への関心や参加度は、地域特性の異なる教室間で異なり、市街地の教室の保護者よりも農村地の教室の保護者の方が、他の子どもへの働きかけ、地域住民とのつながり、子どもの集う場所への関心を高く評価していた。さらに、放課後子ども教室時の子どもの様子に関する評価と地域への関心や参加度は、農村地の教室参加児の保護者のみに中程度の正の相関が認められた。これらのことから、放課後子ども教室における子どもの様子に関する評価に、教室の背景にある地域特性も関与すること、本来、地域への関心・参加が高い地域の保護者の場合、子どもの様子に関する評価との関連性が生じることが考えられた。

③ 教室運営スタッフの回答結果から、教室間で放課後子ども教室時の子どもの様子に関する評価と教室運営スタッフ自身の地域への関心や参加度に違いはなく、また、2要因には中程度の正の相関が認められた。また、自由記述から、教室運営スタッフが抱く参加児童と関わる上での悩みとして、学習支援の程度や方法、注意・制止の判断や保護者の関心・協力度に対する戸惑い等などが明らかになった。同時に、児童との交流を通して「元気をもらおう」といった情緒的体験を得ており、教室への継続参加意欲や内容の工夫への動

機につながっていることが示唆された。

(3) 本来、『放課後子どもプラン』は保護者の就労の有無を問わず、全ての児童（小学生）を対象とするものであり、保育機能を主に放課後児童健全育成事業（通称、「学童保育」等）が担い、放課後子ども教室は健全育成を担当する事業である。しかし、実際には、各小学校区の面積（通学距離）や年齢別人口規模によって、対象学年の上限や学童保育を利用していないこと等、利用制限が設定されている教室が少なくなかった。放課後活動関係者へのインタビューから、放課後子ども教室については教室運営スタッフの確保や子どもへのかかわり方、活動の企画・実施などが共通した課題として出された。保育の補完が第一義的目的である放課後児童健全育成事業に関しては、地域住民との交流や健全育成を目指した活動の導入の難しさ等が示された。また、視察した放課後子ども教室のコーディネーターおよび教室運営スタッフとも、放課後子ども教室は補習の場ではないという捉え方は一致しているものの、放課後の居場所としての具体的指標はなく、いずれの教室も試行錯誤しながら実施している状況であり、放課後子ども教室のミニマム・スタンダードの提示が必要と考えられた。

(4) 調査研究をもとに、放課後における子ども・家庭育成支援プログラム（試案）を作成した。現在、放課後活動関係者とともにプログラム実施上の課題を整理している状況である。今後は、子ども・家庭育成支援プログラムの効果検証が求められる。放課後子ども教室が、参加児にとって物理的・心理的にも放課後の居場所となるために、参加児同士の友人としての広がりはもちろん、地域スタッフとの円滑な対人交流が不可欠である。そのような直接的な対人交流は、参加児の保護者にも地域への関心の広がりにも作用すると考えられる。放課後の居場所づくりには、対象となる子どもと保護者のニーズを把握し、当該地域の実情と地域住民（教室運営スタッフまたは教室運営スタッフとなる可能性のある人を含む）がもつ強みとニーズを見出し、実際の活動へと繋ぐ取組や、活動実施後の評価と修正、学校や地域団体といった関係機関間の調整等といったマネジメントが重要である。地域との調整役として配置されている放課後子ども教室コーディネーターがそのようなマネジメント機能を備え発揮するために、研修体制の充実、権限の強化や身分保障が求められる。

なお、本研究成果を地域に還元するため、研究成果を報告書にまとめ、調査協力者および青少年育成関係者に配布した。また、青少

年の健全育成活動に関心のある地域住民を対象とした公益社団法人青少年育成県民会議主催総合講座，青少年育成市民運動推進大会講演会および同団体会報に本調査の一部を紹介した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 2 件)

- ① 西村いづみ，2012，世代間交流におけるマネジメント - 「放課後子ども教室」の事例を通して - ，第 11 回ケアマネジメント広島大会 (広島市)。
- ② 西村いづみ，2009，青少年の精神的健康とストレス対処について，第 68 回日本精神衛生学会総会 (奈良市)。

[図書] (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西村いづみ (IZUMI NISHIMURA)
県立広島大学・保健福祉学部・講師
研究者番号：90405522